

令和8年度愛媛大学大学院農学研究科・愛媛県農林水産研究所合同研修会開催要領

1 趣 旨

愛媛大学大学院農学研究科では、地域と世界の益々の発展のために「自然と共生する持続可能な社会を構築する」ことを大きな目標に、教育研究・社会貢献活動を進めている。一方、愛媛県農林水産研究所では、地域の技術的課題に速やかに対応し、本県の農林水産業の活性化を図ることを目指した取組みを進めている。

こうした両者の研究を支え、将来にわたり挑戦的な研究を進めていくためには、研究者同士の連携が重要である。

そこで本年度は、近年の重要課題である地球温暖化対策を中心に、これまでの農学研究科・農林水産研究所の幅広い研究成果を通じた意見交換を行い、今後の研究の展開を図る。

2 主 催 愛媛大学大学院農学研究科、愛媛県農林水産研究所

3 日 時 令和8年9月4日（金） 13：30 ～ 16：45

4 場 所 愛媛大学農学部 大会議室（本館二階）、多目的ホール（本館三階）

5 内 容

（1）主催者挨拶（13:30～13:45）

（2）分科会（13:45～15:35）

ア 第一分科会 『AI・IoTによる地球温暖化対策』（会場：大会議室）

○座長：（愛媛大学大学院）羽藤 堅治 教授、（農水研）河野 靖 専門幹

近年の急速な温暖化への対策として、AI（人工知能）・IoT（モノのインターネット）等の先端技術が注目されています。本分科会では、これらの技術の試験研究及び生産現場における取組について、整理・共有し、参加者で意見交換を行います。

イ 第二分科会 『地球温暖化に対する多様なアプローチ』（会場：多目的ホール）

○座長：（愛媛大学大学院）高橋 真 教授、（農水研）岡本 充智 室長

地球温暖化は、農林水産業において高温障害、生産性低下、病虫害被害拡大など、様々な影響を及ぼしています。こうした現場課題に対する、各分野での多様なアプローチを紹介するとともに、持続可能な農林水産業の未来に向けて参加者で意見交換を行います。

（3）パネルでの研究成果等の紹介・展示（15：45～16：45）（21～23 番講義室）

（4）情報交換会（17：30～19：00）農学部生協1階 （会費：4,000 円）

6 参集範囲

愛媛大学大学院農学研究科、県農林水産研究所、国、県関係機関 等

令和8年度愛媛大学大学院農学研究科・愛媛県農林水産研究所合同研修会
パネルでの研究成果等の紹介・展示一覧

出展者	課題名
愛媛大学大学院農学研究科（15）	
生命機能科学応用開発グループ	酵母を用いた液胞の機能解析
スピード育種システム研究グループ	サトイモに花を咲かせる試み
農場	緑肥を利用した有機栽培継続水田における不耕起処理とメタン発生
環境先端技術センター・環境保全学	メダカを用いたペル及びポリフルオロアルキル化合物(PFAS)の繁殖及び次世代影響評価
ハダカムギ開発研究センター	ハダカムギにおける登熟後期の降雨、穂への水噴霧および子実の浸水が硝子率に与える影響
柑橘産業イノベーションセンター	柑橘産業イノベーションセンターにおける研究の紹介
農業生産学	ゲノム編集による最強・究極・ウルトラ・スーパー愛媛ブランド米の作出にむけて
	ゲノム編集による棘なしカラタチ作出の試み
	イネの開花期高温による不稔発生の着粒位置による差異
	開花直前の高温がイネの稔実に与える影響およびその品種間差異
植物工場システム学	カスタム深層学習検出器によるカンキツかいよう病・そうか病の早期検出
食料生産経営学	大規模水稻作経営における圃場分散問題と農地集約化の展望
応用生命化学	昆虫トレハラーゼを標的とする阻害剤の探索ツール
地域環境工学	観測データに基づく農業用ダムの地震時挙動評価
環境保全学	暑熱ストレス下での蚕糸副産物由来機能性物質のニワトリ（ひめっこ地鶏）成長に与える効果
愛媛県農林水産研究所（16）	
企画戦略部 農業研究部	比重を用いる中晩柑類‘愛媛果樹試第48号’果肉異常の選果精度
	クロピラリド簡易分析法の検討
	重イオンビーム照射によるサトイモ変異体獲得
	水稻栽培管理および作物生育調査に係るアプリ開発
	AI発生予察灯の導入について
果樹研究センター みかん研究所	かんきつにおけるゲノム編集技術の導入に向けた取り組み
	カンキツ黒点病に対するドローン防除（2年目）
	カンキツのゲノム編集利用に向けたカルス培養条件の検討
畜産研究センター 養鶏研究所	アミノ酸比率法を活用した銘柄豚収益性向上技術の検討
	ICTを活用した反芻モニタリングの乳牛飼養における有用性
	発酵処理した酒粕の新たな給与方式の検討
林業研究センター	ドローンを使用した森林の写真測量の精度
	CLT建築物の環境評価と人への影響調査
	県オリジナルエリートツリーの開発状況について
水産研究センター	宇和海における赤潮発生の予察モデルについて
栽培資源研究所	ウスバアオノリのアクアポニックス技術開発